

主の公現・エピファネイア

マタイ2章1-12節

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で、決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

説教

イエス降誕には、ひとつのしるし、星が輝きがありました。東方の学者たちも、エルサレムの宮殿に住む王者も、そしてベツレヘムの羊飼いたちも同じ

星を仰ぎ見ました。しるしを目撃した人々の反応を聖書（マタイとルカ）は4パターン証言しています。

1. 東方学者：遠方から献物を持って礼拝した。（マタ2:11）
2. ヘロデ王：メシア誕生情報を知りメシア殺害計画（マタ2:16）を実行した。
3. ベツレヘムの羊飼いたち：天使からメシア誕生情報を聞き、さっそく現場に確かめにいき礼拝した。（ルカ2:8-16）
4. メシア誕生を羊飼いから聞いたベツレヘムの村人は不思議に思った。（ルカ2:18）

ヘロデ王の反応は敵対的ですがすばやいものでした。その一方で羊飼いたちから事の顛末を知らされたベツレヘムの村人は友好的ではありますが「不思議」と思っただけで特別の反応はありませんでした。かりに今のわたしたちにイエス公現のしるしがあったと考えてみましょう。たとえば、「おまえに使命を与える、これこれのことを行え」と天使に告げられるとか、星のしるしに導かれるまま尋ねたところに重大ななにかを見つけたとします。バカげたことだと反撃する（ヘロデ反応）不思議だなあとつぶやく（ベツレヘム村人反応）急いで帰り対応を相談する（東方学者反応）礼賛し礼拝する（羊飼いたち反応）聖書はさまざまな反応を伝えていますが実際のところわたしたちはどのように反応、対応するのでしょうか。

習慣を信仰とは呼びません。日曜日にイエスのことばを聴く習慣は信仰のひとつの形ではありますがすべてではありません。礼拝だけにとどまらず、主のはたらき、呼びかけを聞き取りその導きに従う信仰を新年初頭に刻みましょう。敵対的であれ、友好的であれ、すべての人々に主の平安がありますように。
